

54 6歳の男児。5日前からの発熱と全身倦怠感を主訴に来院した。心音と呼吸音とに異常を認めない。左右の頸部リンパ節を1cm触知する。右肋骨弓下に肝を6cm、左肋骨弓下に脾を3cm触知する。血液所見：赤血球285万、Hb 9.1 g/dl、白血球2,000、血小板8.1万、プロトロンビン時間60% (基準80~120)、APTT 42秒 (基準対照32.2)。血液生化学所見：フェリチン12,400 ng/ml (基準20~120)、AST 384 IU/l、ALT 28 IU/l、LD (LDH) 1,883 IU/l (基準260~530)。CRP 2.4 mg/dl。骨髓塗抹 May-Giemsa 染色標本 (別冊No. 25) を別に示す。

診断はどれか。

- a 血友病
- b 血球貪食症候群
- c 再生不良性貧血
- d 急性リンパ性白血病
- e 特発性血小板減少性紫斑病 (ITP)

別 冊

No. 25

55 19歳の男性。臀部の腫脹と疼痛とを主訴に来院した。3日前に椅子で臀部を打ち、2日前から徐々に腫脹と疼痛とが強くなってきた。幼少時から同様のエピソードを何回か繰り返し、病院を受診している。意識は清明。体温37.8℃。脈拍92/分、整。血圧118/62 mmHg。皮膚に出血斑を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟。両膝関節の腫脹と屈曲制限とを認める。左臀部は腫脹、緊満し、圧痛を認めるが、発赤は認めない。尿所見：蛋白(-)、糖(-)。血液所見：赤血球342万、Hb11 g/dl、Ht33%、網赤血球4.1%、白血球9,400、血小板38万。血液生化学所見：総蛋白7.5 g/dl、アルブミン4.8 g/dl、尿素窒素20 mg/dl、クレアチニン0.9 mg/dl、尿酸5.6 mg/dl、総コレステロール164 mg/dl、総ビリルビン1.8 mg/dl、直接ビリルビン0.4 mg/dl、AST52 IU/l、ALT38 IU/l、LD(LDH)402 IU/l(基準176~353)。CRP0.5 mg/dl。

異常がみられるのはどれか。

- a 出血時間
- b PT
- c APTT
- d 血小板粘着能
- e 血小板凝集能

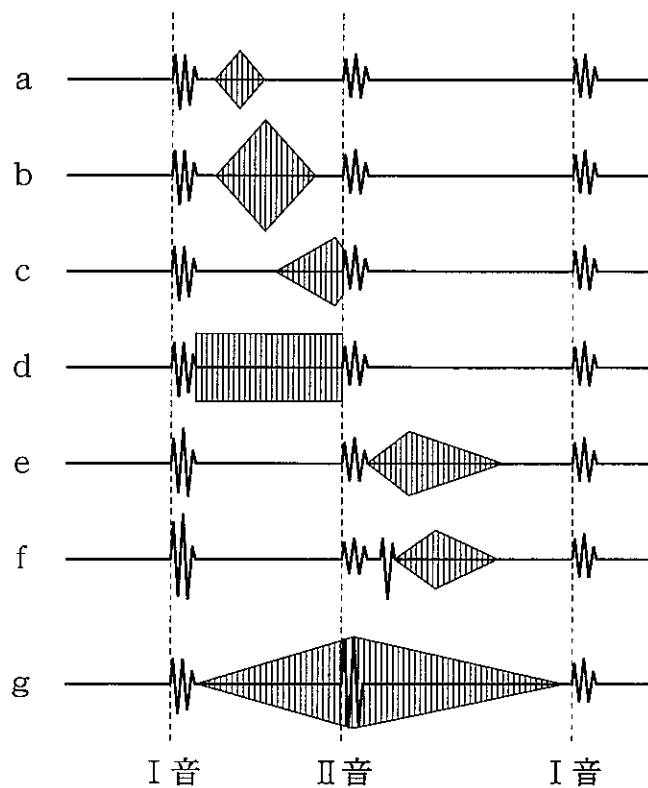
56 50歳の男性。心窩部痛のため搬入された。多量の飲酒後に激しく嘔吐し痛みが出現した。胸部エックス線写真で中等量の左胸水貯留を認めた。ドレナージにて混濁した胸水を認める。

最も考えられるのはどれか。

- a 急性心筋梗塞
- b Mallory-Weiss 症候群
- c Boerhaave 症候群
- d 十二指腸潰瘍穿孔
- e 急性膵炎

57 55歳の女性。息切れを主訴に来院した。30歳時から心拡大と不整脈とを指摘されていた。数年前から階段を昇るときに息切れを自覚するようになり次第に増悪した。心エコー図(別冊No. 26A、B)を別に示す。

心臓の聴診所見はどれか。



別冊  
 No. 26 A、B

58 60歳の男性。1時間以上持続する胸痛を主訴に来院した。10年前から高血圧症にて内服治療中である。胸部エックス線写真に異常を認めない。12誘導心電図(別冊No. 27)を別に示す。

障害を起こしている臓器に最も特異性の高い血液検査はどれか。

- a 白血球数
- b CRP
- c AST
- d ALT
- e LD(LDH)
- f クレアチンキナーゼ(CK)
- g トロポニンT
- h ミオグロビン

別 冊

No. 27

59 52歳の男性。労作時の息切れと胸痛とを主訴に来院した。5年前から健康診断で心拡大を指摘されていたが放置していた。脈拍84/分、整。血圧142/42 mmHg。胸骨左縁第3肋間に拡張期雑音を聴取する。下肢に浮腫を認める。心尖部から記録したカラードプラ心エコー図(別冊No. 28)を別に示す。

治療として適切なのはどれか。

- a Maze手術
- b 交連切開術
- c 人工弁置換術
- d 欠損孔閉鎖術
- e ステントグラフト内挿術

別冊 No. 28
--------------

60 髄膜瘤で誤っているのはどれか。

- a 発生頻度は出生250に対して1である。
- b 葉酸摂取量と関連がある。
- c 母体血清中AFPが上昇する。
- d 脳室拡大は出生前診断の糸口になる。
- e 分娩は帝王切開が望ましい。
- f 排尿・排便障害の合併頻度が高い。
- g 出生後早期の手術が必要である。